（公社）日本口腔インプラント学会
ケースプレゼンテーション論文記載要項 【2016 年度版】

ケースプレゼンテーション論文を投稿される際には、試験が実施された学術大会終了後一年以内という投稿期限がありますのでご注意下さい.
平成 28 年度ｹｰｽﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ論文提出期限：平成 29 年 9 月 19 日(必着)
なお，投稿後に査読を行います．査読結果によっては，受理までに長期間を要すことがありますので，ご理解の上，ご投稿下さい.
平成 27 年度ケースプレゼンテーション論文投稿の先生方より電子媒体での掲載となります.

※原稿は，雛形のワードファイルを使用して作成して下さい．雛形のファイルは，学会ホームページよりダウンロードできます．昨年度までに投稿受理された他人のファイルを譲り受け，上書きして作成することは避けて下さい．投稿された原稿のフォーマットが著しく異なる場合には，査読に回すことができません（受理が遅れます）ので，ご注意下さい.

１．原稿のまとめ方
１）以下の順に１つのワードファイルとして作成する.
２）表紙を第１ページとし，ページ番号を下段中央に表示する.
３）原稿は以下の順に記載する.
① 表紙
② 本文と文献
Ⅰ．緒言
Ⅱ．症例の概要
Ⅲ．治療内容
Ⅳ．経過と考察
Ⅴ．結論
Ⅵ．文献
③ 写真（図）の説明文
④ 写真（図）

３．記載上の注意事項
１）原稿の体裁
① A４判,横書き,ページ１枚に 20 字×20 行で記載. フォントは明朝体, 12pt.
② 口語体，新かなづかいとする.
※ 注意！
日本口腔インプラント学会誌の用字・用語基準を守ること
【よくある誤用例】
〈誤〉・・・する事 → 〈正〉・・・することと
〈誤〉・・・する為 → 〈正〉・・・するため
〈誤〉１ヶ月後，〈誤〉１ヵ月後 → 〈正〉１カ月後
〈誤〉メンテナンス → 〈正〉メインテナンス
③ 歯式は Zsigmondy & Palmer 法（いわゆるカギ付き歯式）あるいは、FDI(Two-digit system)方式の何れかとするが，何れかに統一すること.
④ １桁の数字は全角、その他は半角とする．１カ月、12 カ月、1.2㎜、2016 年
⑤ その他は本学会誌投稿規程に準拠する.
２）ページ数
① 原稿は 10 ページ以内，刷り上り２ページ以内とする.
② ページ数はおおむね次の要領とする．表紙は１ページ，緒言・症例の概要は

1.5 ページ，治療内容は 1.5 ページ，経過と考察・結論・文献は３ページ，図（写真）の説明文は１ページ，図（写真）は２ページ程度とする．

③　写真は２ページに貼付ける．

④　図（写真）は，縮小できるサイズに限りがあるため，刷り上がり２ページに収まらない場合は枚数を制限（削除を指示）することがある．

３）表紙

１ページ目を表紙として以下の事項を記載する．

・ 最上部にケースプレゼンテーション論文と記載する．
・ 表題名（英文併記），著者名（英文併記），研修施設名（英文併記），住所，電話番号，FAX 番号，メールアドレスの順に記載する．
・ 表題名は原則としてケースプレゼンテーション発表と同じとする．
・ 共著者は認めない（発表者のみの単著論文とする）．
・ 所属研修施設名は現在所属する一施設のみとする．

４）緒言

最初に「Ⅰ．緒言」と記載する．改行して一文字字下げ（インデント）し，論文の発表目的を簡潔に記載する．

５）症例の概要

１行空けて最初に「Ⅱ．症例の概要」と記載する．改行して１文字下げ（インデント）し，下記の内容について簡潔に記載する．

①　患者：年齢，性別

②　初診：西暦年月

③　主訴：患者が最も訴えている事項（基本的には１つ．患者の訴えを簡潔に記載する．主訴は必ず患者の言葉で表現しなければならないという考え方もあるが，本論文では「冷たい水で○○がしみる」を「○○の冷水痛」など，患者の訴えが明確に表現できる場合に医学用語を限定的に用いることは認める．しかし，患者の訴えが医学的に明確でない場合には、原則として患者の言葉をそのまま用いる．〈例〉「噛むと○○がヒリヒリする」）

④　既往歴：全身的，歯科的既往歴

⑤　現病歴：主訴に関する初診までの病歴

⑥　現症：全身所見，口腔内所見（歯，歯列，歯周組織，口腔衛生，咬合状態，咬合様式，顎機能異常の有無，その他）と検査所見等にわけ記載．それぞれの項目は全角スペースを空け「全身所見：」として記載する．

⑦　検査結果：パノラマエックス線所見（必要に応じてデンタル、CT エックス線所見等），血液等臨床検査所見，その他

⑧　診断名：残存歯を含めた口腔内の疾患名（歯の欠損以外に疾患が認められない場合には「○○欠損症」（いわゆる MT）という診断名を認める．「○○欠損による咀嚼障害」という診断名を下す場合には，咀嚼障害の診断根拠（咀嚼能力検査等による客観的評価）が必要となる）

６）治療内容

１行空けて最初に「Ⅲ．治療内容」と記載する．改行して１文字下げ（インデント）し，下記の内容について簡潔に記載する．

①　治療方針

②　治療計画，治療順序

③　インフォームド・コンセントの内容
④　処置内容:インプラント治療前処置(抜歯, 歯周処置, 口腔衛生指導を含む), 外科処置，術後処置（暫間補綴を含む)，補綴処置など
⑤　使用材料などを記載する（使用されたインプラント体のタイプ，サイズ，製造業者名等を必ず記載して下さい．論文中で，機器や薬品などの名称を記す場合は，その一般的名称を記し，続けて（　）内にその製品名や型式，製造社名，製造都市名，外国名を順に記す（例：インプラント体（Nobel Replace Speedy® RP 13 mm, Nobel Biocare, Göteborg, Sweden)))．

7）経過と考察

１行空けて最初に「Ⅳ．経過と考察」と記載する．改行して１文字下げ（インデント）し，下記の内容について簡潔に記載する．

①　メインテナンス，リコール
②　上部構造(体)装着３年以上経過後のインプラント状態，インプラント周囲組織，咬合状態，エックス線所見による骨の状態，口腔衛生状態など
③　この症例を通してわかったこと（留意した点，注意すべき点，問題点など）を文献などを参考（引用）にして，考察する．

8）結論

一行空けて最初に「Ⅴ．結論」と記載する．改行して一文字字下げ（インデント）し，下記の内容について簡潔に記載する．

①　緒言に対応して，症例の結果から得られた事実を簡潔に記載する．(「・・・と考えられる」などの著者の考えを述べるのは【考察】であり【結論】ではない．結論は，緒言に述べた内容に呼応した記述が求められる)

〈記載例〉

【緒言】

『・・・×××に対しインプラントによる補綴治療介入を行ったところ、３年以上にわたり良好な経過を示したため報告する.』

↓〈内容が対応していること〉

【結論】

『インプラントによる補綴治療介入によって口腔機能回復を行ない，３年２カ月間メインテナンスを行っているが、インプラント周囲の骨レベルに変化はなく炎症所見も認められていない．このことより、インプラントは×××の症例において有効な治療法であることが示された.』

9）文献

一行空けて最初に「Ⅵ．文献」と記載する．学会誌投稿規定に準じて記載する．

① 引用順に記載し，本文引用個所に肩付き引用番号を記載する．(〈例〉・・・という報告[1] がある.)
② 記載順序,「,」「.」「：」「；」の使用法に注意する.
③ 英文誌名の省略法に注意する.
④ 雑誌論文では「巻」までとし,「号」は記載しない.（例：日口腔インプラント誌 2000；13：105‐108.）

※日本口腔インプラント学会誌の投稿規定にある文献記載方法を必ず確認のこと

10）図（写真）の説明文
「Ⅵ．文献」に続けず，改ページして以下の記載をする．
① 図（写真）に対応する説明文を図の番号順（図１，図２・）記載する．
② 撮影年月（西暦）を記載する．（個人情報保護の観点から日付は記載しない）
③ 図（写真）の説明文はワードファイル１ページに収める．

11）図（写真）
① 図（写真）はファイルに直接貼付ける．（原則として１ページ２枚）
② 症例概要報告書／ポスターと同様に，(1)術前口腔内写真、(2)術前エックス線写真，(3)上部構造(体)装着後の口腔内写真，(4)上部構造(体)装着後３年以上経過後の口腔内写真、(5)上部構造(体)装着後３年以上経過後のエックス線写真は必ず含むこと．
③ 写真はインプラント治療部位がすべて確認できるものとする．
④ 組写真はなるべく避ける（掲載時写真のサイズが小さくなるため）．
⑤ 写真が多く，学会誌 2 ページに収まらない場合には，文章の削除か，写真の数を減らすよう指示されることがある．

４．査読
１）論文は試験委員会で査読し，その結果に基づいて，著者に修正を求める．
２）修正後，適切と判断された論文に対して，受理の判定となる．
３）試験委員会で受理された後，掲載証明書を発行する．

５．掲載料
１）掲載料は刷り上り 2 ページで 5 万 1 千円（税込）とする（別刷 50 部を含む）．ただし，カラー写真は別途費用を申し受ける．
２）追加の別刷りは 50 部単位で受付けるが，料金は別途に申し受ける．

６．原稿の送り先・問合せ先
（ワードファイルをＥメールに添付する形で下記Ｅメールアドレス宛まで送る）
１）Email：hensyu9@kokuhoken.or.jp
（財）口腔保健協会内 日本口腔インプラント学会試験委員会 担当：幅　栄治
〒170‐0003　東京都豊島区駒込 1-43-9　駒込ＴＳビル 5 階
TEL：03‐3947‐8894　FAX：03‐3947‐8073
２）「ケースプレゼンテーション論文送付」とＥメールの件名欄に明記すること．
３）ファイルの容量は 5MB 以内とすること．
４）ファイル容量が大きく，送付困難な場合には，「宅ファイル便」等のファイル転送サービスを利用するか，上記担当者に直接相談すること．
５）原稿送付後，一週間経っても原稿到着確認の連絡がない場合は，なんらかのトラブルが考えられますので上記連絡先にお問い合わせください．